

ひめだ高松ニュース

日本共産党 和歌山市委員

No.1069

15.9.8

9月定例会市議会報告



9月定例会市議会最終日(9月31日)に、市議会全党派提案で「紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会」に関する決議を採択したことは、前号で報告しました。今号は、同日採択した「教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度」の復元を図るための予算措置を求めた「意見書」について報告します。

教職員定数改善と義務教育費国庫負担増

この意見書案は、至政クラブ、日本共産党市会議員団、誠和クラブ、維新の党議員団の4会派が共同して提案し、賛成多数で可決。OECDの諸国に比べ、学級当りの児童生徒数や教員一人当りの児童生徒数が、多い日本において、きめ細やかな対応や学びの質を高めるために教職員定数の改善は不可欠で、国が責任

を持つて取り組むべきと指摘し、①計画的な教職員定数改善を推進すること②義務教育費国庫負担制度の負

2つの決算特別委員会設置

9月定例会市議会最終日(2014(平成26)年度の決算を審査するための2つの特別委員会(定数はそれぞれ10人)が設置されました。水道と工業用水道会計の決算は、(公営企業決算特別委員会)、日本共産党から森下(さし)議員と私(ひめだ)が委員に。来週、委員会が開かれます。

一般会計と特別会計の決算を審査する決算特別委員会には日本共産党から松坂(まつざか)議員と中村(なかむら)と議

務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に復元することを求める内容です。

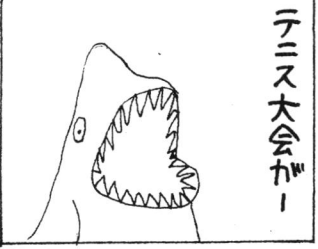
戦争法案 反対・宣伝
9月13日(日)
 10:30~11:30 高山病院前
交差点
 16:00~ 輪
 和歌山城西の丸
17:00集会后 JRまで7分

今週のフツの人々 (その15)

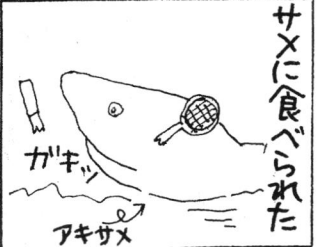
あきしやめじえんしえん 9月6日の日曜日も雨が降りました。そのため新日本スポーツ連盟和歌山テニス協議会の男女ダブルス大会は、朝早く雨天中止になりました。残念でしたが、10時頃には本格的に降り出したので、あきしやめじえんは、太平洋側と日本海側の高気圧の境目の秋雨前線の影響です。今週末は、そこに台風が来て、5センチ程度の雨連綿として

日曜日が雨になるかも知れません。やれんなあ。秋雨前線といふ言葉を聞いて、福井敏雄さんを思い出しました。お天気おじさんと呼ばれていた福井さんは徳島生まれで「あきさめじえんせん」が「あきしやめじえんしえん」とサ行がシヤ行になる方でした。徳島の方です。啄木が上野駅で岩手の言葉を聞いたように私は、テレビで福井さんの言葉を聞いていました。

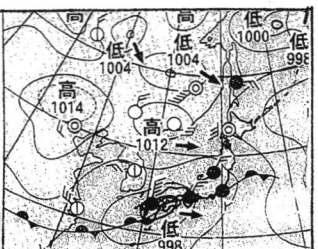
フツの人々



テニス大会がー



サメに食べられた



お天気おじさん 福井敏雄さん

あきしやめじえんしえん



ひめだ高松

宮前で「安保法制の学習会」

9月5日(土)宮前地区
会館で宮前地域の生活者
くする会が開いた「安保法
制の学習会」に、私、ひめ
だも参加させていただきま
した。講師は、憲法の条を
守る和歌山弁護士会の重
藤雅之弁護士(あすか総合
法律事務所)です。

重藤弁護士は、安保法案
の基礎知識と題し、①どこ
が「憲法違反」なの?②個

くんにはば 日本共産党



時間外受診に5千円??
先日、知人の子どもが
家の家でけがをしまし
た。偶然居合わせていた
ので止血をし、病院へ行
くつと情報センターに電

別的自衛権と集団的自衛権
③後方支援は兵たん④PK
Oはどう変わる?⑤グー
プー入事態⑥押しつけ憲法
?⑦どうすればいいのか
と詳しいレジュメとていぬ
読者の投稿

短歌

喫茶店 コールコーヒー 飲み干せば
まったりとして心に満みる
大雨を降らせて後は晴れにけり
西に夕日の優し初秋

勝田 鉄也

ですが、小児も対象となり
ます。
早速先日、県の医務課
と相談し、子育て中のお
母さんの不安を伝え、対
象外の内容を検討してい
しいと要望しました。

話をしたところ、「今の時
間、外科の先生は日赤しか
ありません。時間外なので
5千円必要です」とのこと
でした。この5千円とい
うのは「時間外選定療養費」
といひて、緊急性の高い方
を最優先するため、4月か
ら日赤で徴収が実施されて
います。軽症の患者さんの
受診を抑制するのが目的で



さかうちゆき子
(参院選挙区)

大門みきこ 参院議員 かるやがHゲイ

「絵本のすすめ」
「趣味はなんですか?」
と聞かれ、「絵本の収集」
と答えると、大抵の人は信
じられない、清酒の収集の
まちがいではないか、と言
います。
いまから10年ほど前、書
店でたまたま絵本のコーナ
ーを通りかかったとき、実
話をもとにした絵本『エリ
カ・本跡のいのち』(ルー
ス・バンダー・ジー)が目
にとまりました。
第2次世界大戦中、ユダ
ヤ人を強制収容所に運ぶ汽
車の窓から、ひとりの母親
が住後間もない女の赤ちゃん
ん(エリカ)を毛布にくる
んで投げ出します。運ぶ人
村人に拾われ、成長した工
リカは母の思いを理解しま
す。「お母さまは、自分は
『死』に向かいながら、私
を『生』に向かって投げた

のです」と。立ち読みでし
たが、映画を観たような衝
撃を受けました。
以来、絵本の魅力にとり
つかれ、670冊まで集め
たときに、東日本大震災が
起こり、地元ボランティア
の方をうつじて、避難所の
子どもたちにも300冊ほど
選んで送りました。その中
の1冊、『おはげのてんぷ
ら』(せなけいこ)は、ウ
サギのうさこちゃんか、お
ばけをてんぷらにして食べ
るお話です。「地震や津波
のこわい思いなんか、てん
ぷらにして食べちゃえ」と、
子どもたちに伝えたかった。
人間にとって大切なもの
が見失われ、心のうるおい
が少ない世の中になつてき
ました。もしかしたら、い
ま最も絵本を必要としてい
るのは、子どもたち以上に
大人たちかもしれません。